



【巻頭言】

遠当ての術

一若竹学園の立ち位置を考える一

園長 野田大燈

カップ池にオタマジャクシの卵が浮かぶ時節となりました。

坐禅堂前のしだれ桜も開花寸前となり、学園のハーブガーデンにも春の兆しを感じます。如何に拒んでも春は目の前に来ています。

2月の大雪で一面が銀世界となり、園生・職員の総出で約300に及ぶ県道までの雪掻きをしたのが夢のようです。

学園行事も春先の一大イベント「卒園式」も、事前の園生・職員の力で会場が設営され、日頃より学園の活動を支えて下さっている多くの来賓方をお迎えしてお喜び頂けたのは、そのまま園生と職員の喜びでした。

ただ指示されるまま卒園式に参列するのと、訪れて下さる来賓の方々に喜んで頂こうと設営に参加する違いは天地ほどに異なります。

自分の事ばかりを中心に考えて行動するのと、他人の事も慮って行動することとの違いに似ているように思えるのです。

私は人生も同じではないだろうか、と考えているのです。

武道の中に「遠当ての術」と言うものがあります。

それは劇画や小説に出てくるような、相手の身体に触れずして相手を投げ飛ばすことではありません。

格闘技では相手を攻撃する場合に相対する者の胸や胴の表面を狙って攻撃しますが、遠当ての術は打撃点が胸元を通り抜けた相手の背中に意識を集中して拳を繰り出すことにより相手は大きく転倒するのです。

外見的には同じ動作に映っても、その結果は数倍異なります。

私たちの多くは表層部分に執られて空回りをしてしまうのですが、表面ではなくその深部に意識を集中する事により異なった効果が得られます。

私は子ども達に言います「自分の事しか考えられないで行動するのは子どもです。相手の事を考えられるのが大人です。若竹のみんなは大人になろうね」と。考える視点を変えれば行動が変わってきます。

成熟社会に移行して来た現象の一つが「社会貢献」だと思います。

私も含めて福祉の分野に携わっている者は、この仕事を行っていること自体が社会貢献だ、と自負している傾向があると思います。

社会貢献・ボランティアはその本務以外の事で社会に貢献することだと教えられました。

福祉に従事する多くの方々は、早出・遅出と家庭を犠牲にしてまで尽くしておられます。

しかしながら家庭を犠牲にしての福祉はあり得ないと思います。

長く福祉に従事して頂くためにも、従来とは異なった視点で「福祉」を考えてみなくてはならないと思います。

入り、急な階段を登って周りの景色を楽しんだりしました。

お別れ旅行

今年も園生と職員で、2月27日、28日にお別れ旅行に行ってきた。行き先は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、四天王寺、海遊館、三ツ矢サイダーミュージアムでした。

1日目は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行きました。



子どもたちは事前に何に乗るかを決めており、班行動になると早速お目当ての乗り物の方へ駆けて行きました。宇宙船に乗って惑星間を飛び回るスペース・ファンタジーやジェットコースターのジュラシック・パークなど歓声を上げながら乗り物に乗っていました。また、スヌーピー・スタジオやハローキティ・ファッションアベニューでマスコットと一緒に写真を撮ったりしました。もちろんお土産も買っています。

十分に楽しんだ後、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンに隣接するホテルに泊まりました。ゆったりとした部屋で休み、夕食を食べました。夕食、朝食ともバイキング形式です。和食、洋食、中華とさまざまな種類を選べ、好きなだけ食べ、どの子どもも満足していました。

2日目は、最初に四天王寺に行きました。聖徳太子ゆかりのお寺です。本堂前で静かに手を合わせたり、五重塔の中に



次に海遊館に行きました。いろいろな種類の魚やペンギン、ラッコなどがいました。やはり、お目当ては大きなジンベイザメです。

ジンベイザメに餌をやるところを見学できました。大きな口を開け、海水と一緒に餌を飲み込む迫力はすごく、子ども達はその豪快な様子に驚いていました。



お弁当を食べてから、三ツ矢サイダーミュージアムの見学をしました。ガイドさんが三ツ矢サイダーの歴史やサイダーが作られる過程を教えてくださいました。ベルトコンベアに乗って早いスピードでサイダーが運ばれ、箱詰めされる様子を見ました。見学が終わって、サイダーなど自分の飲みたい物をいただき、工場を後にしました。

帰途のバスの中では、お菓子を食べながらおしゃべりを楽しむ子どもやお土産の包み紙を開ける子ども、静かに目をつむっている子などがいました。どの子の顔にも楽しい思い出ができ、満足した表情を浮かべていました。



<子どもの感想>

お別れ旅行は楽しかったです。いろいろな乗り物に乗りましたが、ジュラシック・パークは 1 時間待ちで乗るのをあきらめました。お土産もぬいぐるみやお菓子などたくさん買いました。

ホテルでは夕食がバイキングで、僕は大皿に魚貝類やステーキをのせ、小皿にサラダを取りました。デザートのカキを 4 つとパフェを 1 つ食べ、お腹いっぱいになりました。ホテルから見る夜景がきれいだったので窓際に集まり、お菓子を持ち寄ってお茶会をしたのが心に残りました。

2 日目には四天王寺、海遊館などいろいろ見学しました。楽しいお別れ旅行になりました。

ホワイト・デー

3 月 14 日はホワイト・デーです。バレンタイン・デーに女の子から手作りチョコレートもらったので、お返しに男子がクッキーを作りました。



クッキーを作ったことがある子どももいて、手際よく作ることができました。最初に生地を作りました。薄力粉にバターと牛乳を入れよく混ぜ、麺棒で平たく伸ばしました。そして型抜きをしました。富士産業さんに焼き上げてもらい、ハート、星、クマ、ウサギの形のクッキーが出来ました。

夕食時に女の子と一緒においしく食べました。

若竹太鼓練習

ドン ドン ドドド ドンと喝破広場に太鼓の音が鳴り響いています。

3 月 25 日に卒園式があり、そこで若竹太鼓を披露するための練習をしている太鼓の音です。15 時 30 分から 1 時間練習しています。



リズムを合わせたり、バチで強く太鼓を打ったり、弱く打ったりと全員がきちんと合わせるのが難しいようです。でもバチを高く上げてポーズを決めたり、みんなの音の一つになった時が楽しいそうです。

卒園式でいい演奏をしようとして一生懸命に練習をしていました。

卒業証書授与式・卒園式

~御寄附ありがとうございました~

3 月 25 日に卒園式を行いました。今年は卒業生 2 名、卒園生 5 名です。関係者の皆様、職員、在園生で見送りました。

静かな雰囲気の中、中学 2 年生の送辞、卒業生代表の答辞が読み上げられました。その後、若竹太鼓の演奏があり、一生懸命練習した成果が表れた演奏でした。卒園式の後には園生がリクエストしたメニューで立食パーティが行われました。卒園生も在園生もお父さん、お母さんや先生方、関係者の皆様と楽しくおしゃべりをし、若竹学園での思い出に花を咲かせていました。



卒業生からの手紙

園長先生、職員の皆様、学校の先生方、そして園生の皆さん、本当にありがとうございました。

若竹学園に来る前は、学校でも休日に家に居ても僕は楽しいと思ったことはありませんでした。友人と遊ぶことも助け合うこともありませんでした。

しかし、若竹学園に来てからは、楽しい日々が送れました。以前はあまり人前で自分の感情を出せませんでしたが、先生方の教えや仲の良い友達ができ、素直に自分の思っている事が言えるようになりました。

また、学校の先生のおかげで無理だと思っていた夢をかなえる勇気をもらいました。僕はくじけずに頑張ろうと思います。

最後になりますが、本当にお世話になりました。僕はみなさんの事を忘れません。皆さんも僕の事を忘れずにいてください。長い間お世話になりました。ありがとうございました。

(御祝をいただきました)

株式会社高岸工務店様 溝内玲子 様

たまや 様
松尾玲子 様
一青窈 様
高松市教育委員会 様

お菓子
犬の餌
衣類・DVD 沢山
エアコン一式

3行事

- 1 日 図書館
- 3 日 ひなまつり
- 1 1 日 公立高校入試
- 1 2 日 公立高校入試
- 1 4 日 ホワイト・デー
- 1 6 日 図書館
- 2 0 日 公立高校合格発表
- 2 4 日 修了式
- 2 5 日 卒園式
- 2 9 日 野外炊飯

編集後記

平成 25 年度も楽しいことや辛いことなど思い出多い 1 年でした。平成 26 年度も新しい気持ちで新年度を迎えます。子どもたちのことを考え、子どもたちの成長を願い頑張りますので、よろしくお願いします。(滝川)

第 242 号発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192
TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160
ホームページ <http://netwave.or.jp/~wakatake/>
Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp
編集兼発行者 若竹学園 編集委員
発行責任者 野田 大燈